

TEAC

ティアック株式会社

平成24年3月期 **事業報告**

第64期 当社をとりまく環境の変化

■ 経済環境の変化

わが国経済は、東日本大震災の影響による景気の低迷から持ち直しているものの雇用情勢は厳しい状態

米国経済の回復遅れ、欧州の財政危機の影響による景気回復の停滞により、世界経済も先行き不透明

■ 当社の対応

当初から予想されていた光ディスクドライブの事業環境の悪化に対応するため、希望退職等の事業構造改革を行い固定費削減を実施

売上高は減収、営業利益、経常利益は減益となるも当期純利益は黒字化

第64期 当社をとりまく環境の変化

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による景気の低迷から緩やかに持ち直しているものの、雇用情勢は依然厳しい状態が続いております。また、米国経済の回復の遅れ、欧州の財政危機の影響による景気回復の停滞などにより、世界経済は依然として先行き不透明な状況が続いています。このような状況の中、当社グループは、光ディスクドライブの需要低迷とEMS事業の不振に加え、原材料費や中国における人件費高騰等によるコスト増加、さらにタイ洪水の影響によるパソコン生産減の影響もあり、厳しい経営環境となりました。これに対し当社グループは、希望退職を含む構造改革を実施し、その他経費削減にも努めてまいりました。その結果、当連結会計年度の連結売上高は26,696百万円（前期比27.6%減）、営業利益は338百万円（前期比66.3%減）、経常利益は19百万円（前期比94.5%減）、当期純利益は89百万円（前期当期純損失1,303百万円）となりました。

第64期 音響機器事業の状況



高級AV機器 (ESOTERICブランド)

日本市場でSACDプレーヤーが引き続き好評であり、増収増益、営業黒字化

一般AV機器 (TEACブランド)

米国、欧州で景気低迷の影響が続くが、国内が好調であり増収、営業赤字大幅縮小

音楽制作オーディオ機器 (TASCAMブランド)

タイの洪水による部品コスト増の影響があったが、放送局向け等国内が好調、増収増益

第64期 音響機器事業の状況

音響機器事業の売上高は13,484百万円（前期比2.7%増）となり、営業利益は997百万円（前期比330.2%増）となりました。

高級AV機器（ESOTERICブランド）は、SACDプレーヤーの新製品が好評を博し、特に国内での販売が大きく伸長しました。一般AV機器（TEACブランド）は、欧米での景気停滞の影響を受け、販売は若干減速しましたが、期中に投入したPCオーディオ関連の新製品により、国内市場向け販売が好調に推移しました。音楽制作オーディオ機器（TASCAMブランド）は、震災の影響による国内設備需要の低迷、タイの洪水による商品供給の停滞及びコスト増、欧州の経済環境悪化による売上減少等の問題も発生しましたが、放送局向け製品の大型受注に加え、引き続きPCMレコーダー、コンピューター用オーディオインターフェイスの販売が世界的に好調に推移したことにより、販売が伸長し、音響機器事業全体では前期と比較して、増収増益となりました。

第64期 情報機器事業の状況



航空機搭載用記録再生機器、医用画像記録機器は好調

計測機器はデータレコーダーが好調、通話録音機器はIT不況により厳しい状況だが第4四半期には上向き、ソリューションビジネスは開発遅れにより販売が落ち込む

光ディスクドライブは、市況悪化に加え、タイの洪水の影響によるパソコン供給減による光ディスクドライブの需要減により大幅売上高減

情報機器全体で減収減益、営業赤字化

Copyright 2012 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

第64期 情報機器事業の状況

情報機器事業の売上高は12,222百万円（前期比43.4%減）となり、営業損失は640百万円（前期営業利益576百万円）となりました。

航空機搭載用記録再生機器は年間を通して安定した販売を維持、特に新製品の投入が販売増に貢献しました。計測機器はデータレコーダーが鉄道関連を中心に概ね順調に推移しましたが、センサー関連においてはLED用ファイア引き上げ機用ロードセルが不振に終わりました。医用画像記録機器はブランド製品の販売がOEMの落ち込みをカバーしたこと、また新製品投入効果もあり通期を通して堅調に推移しました。ディスクパブリッシング機器は海外でのカラーリボンの販売が伸びました。通話録音機器はIT不況の中厳しい状況でしたが、第4四半期には市場の回復が見え販売が上向きに転じました。ソリューションビジネスはケアシステムの開発遅れで販売が大きく落ち込みました。

光ディスクドライブは原価アップ、タイの洪水の影響によるパソコン生産減の影響が長引いたことによる販売数量の低下と光ディスクドライブの供給過剰から販売価格が大きく下落し大幅な減収となり、情報機器事業全体でも前期と比較して減収となり営業損失を計上しました。

第64期 全社の状況



■ 売上高

当初から見込まれていた光ディスクドライブの市況悪化に加え、タイの洪水の影響によるパソコン供給減による光ディスクドライブの需要減、為替環境の悪化により売上高減少
音響機器事業は増収

第64期 全社の状況



- 営業利益： 66.3%減
- 経常利益： 94.5%減
- 当期純利益： 特別損失の計上が僅少であり黒字化

- EU € 期末日
- US \$ 期末日
- EUR平均(PL換算)
- USD平均(PL換算)

対処すべき課題

当社はオンキヨー株式会社と資本・業務提携を行いました
それぞれのブランド力、販売力、技術力、生産力を相互補完し、両社の販売拡大、
製品付加価値の向上、製品競争力強化や新市場の開拓などにより、安定した業績
の実現を目指します

- 両社の英国・台湾における販売拠点の統合(完了)
- Onkyo Europe Electronics GmbHを欧州地域のTEAC、ESOTERICブランドのAV機器販売代理店とし、同地域での両社コンシューマオーディオ製品の販売を一元化
- 国内販売チャンネルを再編、オンキヨーマーケティングジャパン株式会社との連携による営業力強化
国内向けオンラインショップの統合
- それぞれが技術的優位性を持つ製品を相互にOEM供給を行うことによる年末商戦及びそれ以降の製品ラインナップの拡充
- 両社の技術力を結集した新規カテゴリ製品の共同開発設計
- 外部委託工場および当社中国工場での生産機種の一部のオンキヨーグループ工場への生産委託による原価低減
- 国内の修理サービス機能・ネットワークの相互活用、サービスコストの低減と顧客満足度の向上
- 両社の情報システム部門と当社子会社の株式会社ティアックシステムクリエイトが、ICTインフラの統合や社内アプリケーションシステムの標準化を進めることによる、ICTコストの低減とBCP対応

第64期 連結貸借対照表 - 純資産



■ 第64期末の自己資本比率は19.3%

当期純利益89百万円を計上したが、円高に伴う海外子会社の純資産の減少により純資産額は減少

一方、総資産額も減少したことから自己資本比率は1.3%増加

第64期 連結貸借対照表 - 有利子負債



■ 実質有利子負債はゼロ以下、実質無借金を維持

特別退職金等の支出があったものの、売掛債権及びたな卸資産の圧縮等による営業キャッシュ・フローの改善

オンキヨー株式会社との株式持合に伴う支出があったものの、実質無借金を維持

第64期 連結株主資本等変動計算書

平成24年3月期

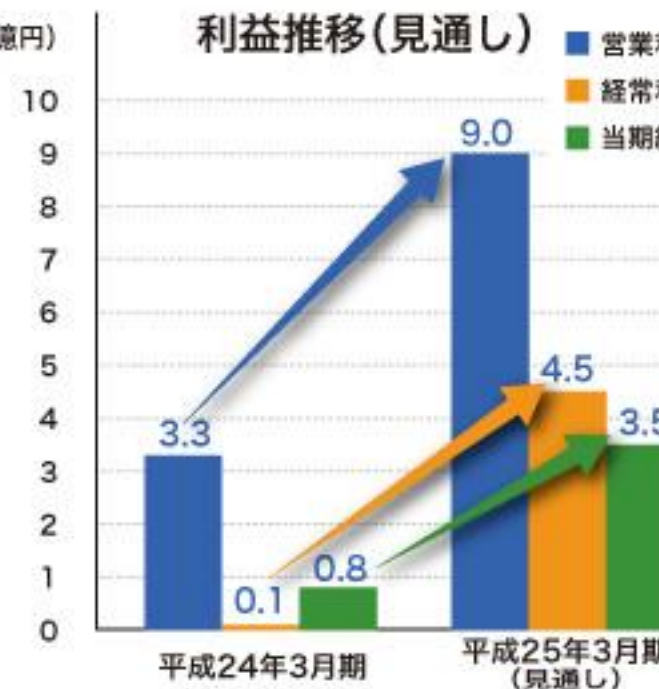
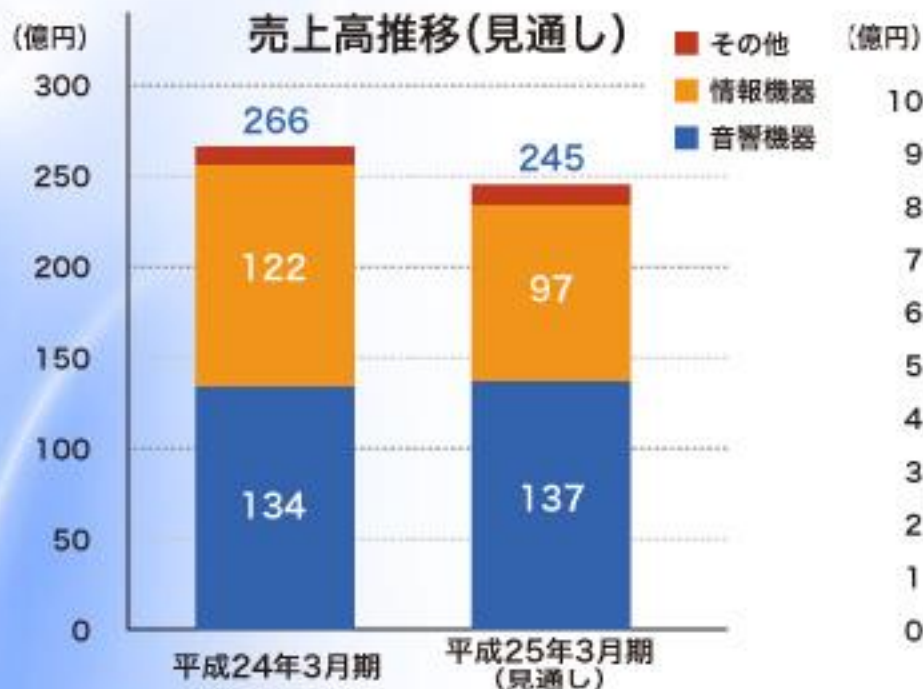
(単位：百万円)

	株式資本					その他の包括利益累計額			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価差額 金	為替 換算 調整 勘定	その他の 包括利益 累計額 合計	
平成23年4月1日期首残高	6,781	1,008	687	△ 106	8,369	99	△4,645	△4,545	3,824
当期変動額									
資本金から剰余金への振替	△ 781	781			—				—
欠損填補		△1,482	1,482		—				—
当期純利益			89		89				89
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株式資本以外の項目の 当期変動額(純額)						5	△ 128	△ 122	△ 122
当期変動額合計	△ 781	△ 701	1,571	△ 0	89	5	△ 128	△ 122	△ 33
平成24年3月31日期末残高	6,000	306	2,259	△ 107	8,458	105	△4,773	△4,667	3,790

■ 株主資本は、当期純利益等により89百万円増加

■ その他の包括利益累計額は、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により122百万円減少

次期の見通し



情報機器事業の売上高は減少見込みだが、利益率の高い音響機器事業の売上高の増加により増益を見込む

想定レート

1米ドル = 80円

1ユーロ = 110円